

イ B校の実践の考察

○「思考力・判断力・表現力等」について

本時の目標は「現在までの海面水位の変化から、一次関数の関係を見だし、一次関数の特徴を利用して問題を解決する」でした。この目標について生徒の到達度をワークシートから見取りました。

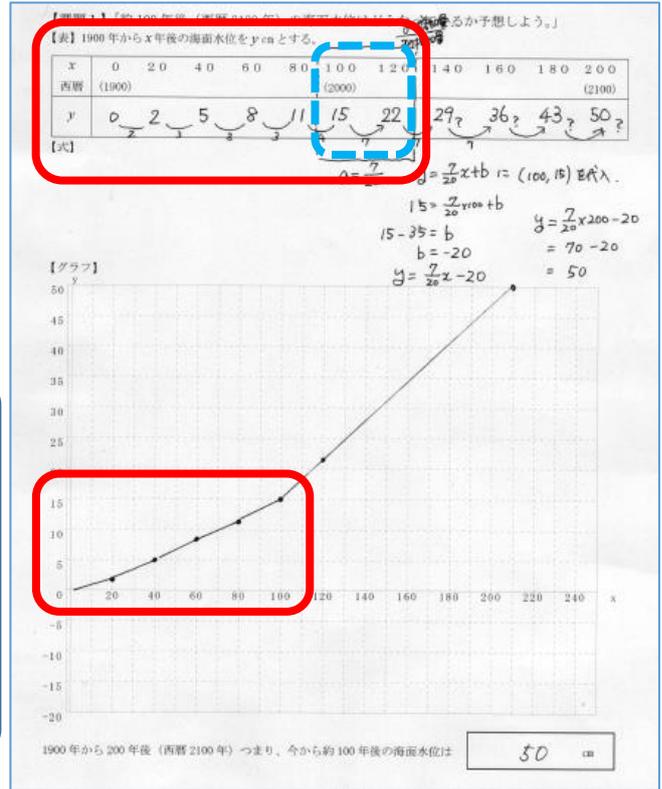
ワークシートの記述を評価するための判定基準を次のように設定しました。

- 評価A：与えられた資料を一次関数とみなし、表やグラフを作成するとともに、それらを基にして一次関数の式を求めることができる。
- 評価B：与えられた資料を一次関数とみなし、表やグラフを作成することができる。
- 評価C：与えられた資料を一次関数とみなすことができる。

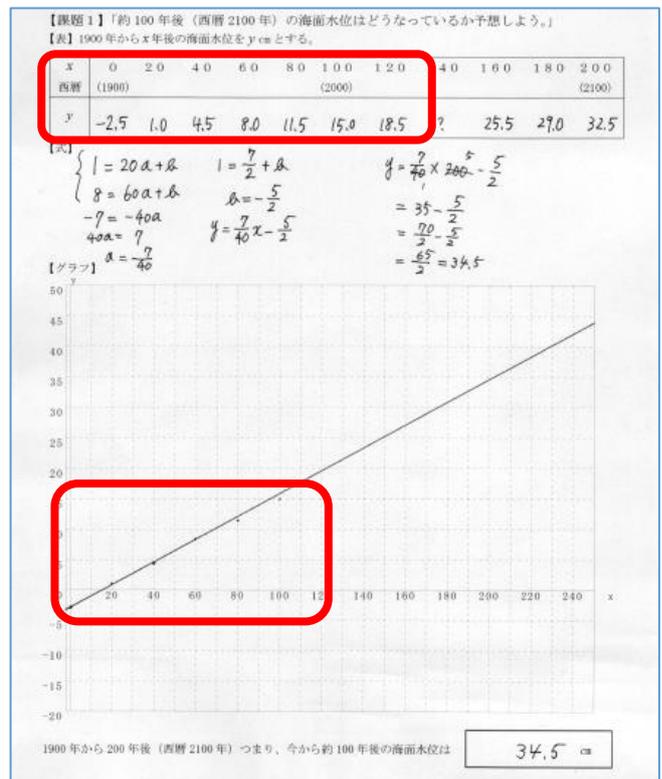
資料1を見ると、生徒Aは    内の記述から表とグラフを作成していることがわかります。作成した表から時間と海面水位との関係を一次関数であると捉え、   内の100年後と120年後の2つの数値を基にして一次関数の式を求めて200年後の海面水位を求めているので、評価Aと判断できます。

資料2を見ると、生徒Bも    内の記述から表とグラフを作成していることがわかります。生徒Aと異なる点は、一次関数の式を求める際に着目した2組の数値です。生徒Aは新しい方から2組の数値に着目しましたが、生徒Bは数値が整数と読み取れた2組に着目して、一次関数の式を求めています。結果として、生徒Aとは異なる変化の割合となり、当然一次関数の式も異なります。

生徒Aと生徒Bが求めた一次関数の式は違いますが、海面水位のグラフを一次関数と捉えて表やグラフを作成し、また、時間と海面水位との関係を一次関数と捉え、一次関数の式を求めることができているので、生徒Bも評価Aと判断できます。



資料1 生徒Aのワークシート



資料2 生徒Bのワークシート

○「主体的に学習に取り組む態度」について

生徒の「主体的に学習に取り組む態度」についてはワークシート（振り返りシート）の自己評価から見取りました。資料3は生徒Cが自己評価を行い、記入したものです。これらをまとめると、表1のようになりました。「意欲的に取り組めたか」では、87.5%の生徒が「ばっちり」「まあまあ」と評価しており主体的に取り組んだ生徒が多かったと判断できます。

振り返り（今日の授業を振り返って）	
① 意欲的に取り組めたか？ 全く・あんまり・まあまあ・ <u>ばっちり</u>	② 今日の学習内容は理解できたか？ 全く・あんまり・ <u>まあまあ</u> ・ばっちり
③ 友達にわかるように説明できたか？ 全く・あんまり・まあまあ・ばっちり	④ 友達と協力して解決できたか？ 全く・あんまり・まあまあ・ばっちり

今日の授業の要点を自分なりにまとめよう。

赤紫のことばこれからのことを予想するときに  
一次関数を使えば求めらるるということが分かった。

資料3 生徒Cのワークシート（振り返りシート）の自己評価

表1 ワークシート（振り返りシート）自己評価

	ばっちり	まあまあ	あんまり	全く
意欲的に取り組めたか	50.0	37.5	12.5	0